
Gin × Vermouth

如月乙姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

G i n x V e r m o u t h

【Nコード】

N 3 6 1 4 D

【作者名】

如月乙姫

【あらすじ】

タイトル通りジン×ベルモットです。久々に会ったジンとベルモット。互いを激しく求めあう。ジンに対してのベルモットの気持ちも綴られています。

（前書き）

R15です。やや性的シーンがあります。

「I love you」

男は私の耳元で囁いた。

私の身体のゾクリと興奮する。

「Me too」

私は熱の混じった声でそう言った。

そのままキスになる。

チュ…クチュ…

「……んっ…んんっ…」

私は塞がれた唇から声を出した。

唇が離れると息が上がっていた。

「……ジン…」

「可愛い声を出す」

彼はクツクツと笑いながら言った。

そのままベッドに押し倒された。

「ジン…!」

久々の逢瀬でジンは溜まったものをベルモットにぶつける。

それでも出来るだけ優しく扱おうとしている。

狼も優しいらしい。

ジンはベルモットの服を脱がせる。

胸の先端をもてあそばれて声を上げる。

ジンも私は手を借りて服を脱いでいく。

「…ジンっ…」

私は彼を呼んだ。

私は彼を受け入れる為に自ら膝を割った。

ジンはそれを見てクツクツと笑った。

前戯として指を受け入れていた私は達してしまいそうだった。彼は避妊しようとしたが、それは必要ないと私は言った。

ジンは私は気持ちを受け入れのかそれ以上は何も言わず私と一つになった。

私は指の戯れだけで達してしまいそうになっていたので今にも達しそうだった。

ジンも余裕がないのか激しくなる。

今、彼を受け止めてしまうと妊娠する可能性が高かった。

私は彼を受け止めた。

二度目の交わりになつて私は考えた。

私は彼にとって理解ある女なのだ…

だから、わがままなんて言わない。

上に乗るジンの重みに現実に戻る。

ベルモットは彼の背中に腕を回した。

「……っ…クリス……」

「…ジン……ジンっ…」

私たちは絶頂を迎えた。

ベルモットの目から涙が溢れた。

「……どうした??」

「何でもないわ」

涙を拭きながら答える。

ジンの手が頬に触れた。

「我慢…しなくていい」

彼は私の身体を抱き寄せて頭を撫でた。

私は彼の腕の中で泣きじゃくっていた。

ジンは私の全てを受け入れてくれる…

私の愛する人…

私は口に出さず心の中で言った。

『Thank you Gin…』

(ありがとう、ジン…)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3614d/>

Gin x Vermouth

2010年10月9日01時41分発行